

2020 年度 清教学園中・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

「神なき教育は知恵ある悪魔をつくり、神ある教育は愛ある知恵に人を導く」という建学の精神のもと、「一人ひとりの賜物を生かす」ことのできる質の高い人間教育を行うことを目指す。

清教学園の目指す人間像

- ①神を信じ誠実に仕える
- ②真理を学び賜物を生かす
- ③隣人と共に平和を築く

2 中期的目標：

教育の質的向上 ～清教「らしさ」・清教メソッドの確立、および運営の質的向上～

1 教育の質的向上

- (1) 学力伸張を図る
- (2) 社会自立・自己実現に向けた夢を育て、志を形成する
- (3) 高い倫理観と Servant Leadership を育成する *Servant Leadership：「リーダーである人は、まず相手に奉仕し、その後、相手を導くものである」という考え

2 生徒における学校生活の充実

- (1) 特別活動の充実
- (2) 生徒指導の充実
- (3) 生徒支援

3 環境整備力の向上

- (1) 施設の充実
- (2) 外部環境への対応
- (3) 情報の共有化と発信力の促進

【学校評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

学校評価アンケートの結果と分析 [2020年12月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p><評価結果の高かった項目> ※ 数値はABの回答率 [%]</p> <p>【中学生】</p> <p>「数学」には学力向上につながる授業が多い 95.8</p> <p>「国語」には学力向上につながる授業が多い 94.4</p> <p>家庭への連絡は適切に行われている 93.1</p> <p>「社会（地歴・公民）」には学力向上につながる授業が多い 93.1</p> <p>災害や不審者から生徒の身を守ることができるように配慮している 91.7</p> <p>生徒は学園で学ぶことに誇りを持っている 91.7</p> <p>生徒は充実した学園生活を送っている 90.3</p> <p>【高校生】</p> <p>熱心に指導してくれる教員が多い 93.4</p> <p>家庭への連絡は適切に行われている 91.7</p> <p>「社会（地歴・公民）」には学力向上につながる授業が多い 91.3</p> <p>「数学」には学力向上につながる授業が多い 91.3</p> <p>「理科」には学力向上につながる授業が多い 90.8</p> <p>宗教・人権教育が重要視されている 90.8</p> <p>【中学保護者】</p> <p>生徒は充実した学園生活を送っている 95.3</p> <p>図書館教育は知的関心を高めるのに役立っている 94.6</p> <p>電子黒板、プロジェクタ、書画カメラ等は学習理解を深める 94.0</p> <p>生徒は学園で学ぶことに誇りを持っている 93.6</p> <p>熱心に指導してくれる教員が多い 92.3</p> <p>P.T.A活動が盛んである 91.9</p> <p>ホームページや広報誌は学園の取り組みを知るのに役立っている 91.6</p> <p>規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされている 91.3</p> <p>生徒が問題行動を起こした時に、きちんと対応している 91.3</p> <p>いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる 90.6</p> <p>家庭への連絡は適切に行われている 90.3</p> <p>学校行事は生徒が積極的に参加できるよう工夫されている 90.3</p> <p>【高校保護者】</p> <p>規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされている 95.6</p> <p>いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる 94.9</p> <p>宗教・人権教育が重要視されている 93.5</p> <p>生徒が問題行動を起こした時に、きちんと対応している 93.0</p> <p>電子黒板、プロジェクタ、書画カメラ等は学習理解を深める 93.0</p> <p>個人情報端末は学習理解を深める [高校のみ回答] 91.7</p>	<p>学校法人清教学園評議員会をもって学校関係者評価委員会とする。なお、評議員の選定は、寄附行為に基づき、学識経験者、学園卒業生、および学園教職員の3つの枠を設けた上で行われている。</p> <p>2020（令和2）年度については、2021（令和3）年3月27日に学校関係者評価委員会を開催した。</p> <p><意見></p> <p>【学識経験者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「塾に行かなくても学力がつく」という事項については、引き続き評価内容に留意されたい。学力向上については、学校での学習に対する信頼感が大切であり、これまで培ってきたものをさらに高めるといった姿勢が常に求められる。今回の評価結果については、学園への期待の表れとして捉えることが適切であろう。また、本校が19時での完全下校となっているため、下校後に塾の自習室を利用する生徒がいるということも把握しているが、生徒たちの学力状況を見ると、学習すべき内容の習得や定着は学校での授業・補講・個別指導・自学習・協働学習で十分に確保されるようになってきていると思われる。 ・部活動を通じた成長も当然に大切であるが、「勉学と部活動との両立」が十分でないという意見が変わらず続いていることについては、改善を図られたい。部活動ガイドラインを踏まえた運営に努めている姿勢を継続いただき、これからの時代が求める良い形での両立が成るのを期待している。 ・生徒と教職員においては「ホームページが役立っていない」という意見が多いのではないかと。PRの仕方を改善していくべきである。これまでの評価結果を踏まえてホームページのリニューアルがなされたところであり、また今般のコロナ禍における学校状況も逐次発信された等、内容面でも良くなってきているため、さらなる改善を引き続き図ってもらいたい。閲覧して芳しくないという点に関するご意見については、とくに留意されたい。 ・安全面に関する教員からの評価が低かった点については、その具体的な内容を知ることができるよう、詳細確認を進めることが必要である。集められた情報をもとに対策を要する場所を特定し、必要な費用措置をとって改善を施されたい。 ・今回の評価アンケートの実施状況については統計学上での問題はなく、評価結果の内容も信頼度のある水準となっているが、中等教育ではきめ細やかな指導を求められているということを踏まえると、アンケートの回答数がさらに確保されるのが望ましい。

ホームページや広報誌は学園の取り組みを知るのに役立っている	91.3	<p>【学園卒業生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建学の理念については、生徒、保護者、教職員の別なく、学園の依って立つところを理解していただけるよう、さらに努めていただきたい。今回のアンケートは、生徒における理解の状況に関する設問がなされた形であり、教員側の目線からすればもっと知ってほしいという願いが込められた回答内容となっている。各調査対象の間で結果にギャップがあった点については、教員において建学の理念をもっと生徒たちに浸透させたいという意識が高く、常にその成果状況を確認しながら進めようとする姿勢が表れたものだと考えられる。その意味では、今回結果に生じているギャップは、むしろ肯定的に捉えるべきではないか。いずれにせよ、学園の教育において建学の理念が大切にされ、みことばを受けとめる謙虚な姿勢が今後も継続されることを望むところである。 ・この学校評価アンケートは同じ事柄に関する経年変化を見ていくためのものでもあるが、それなりの年数にわたるデータが出てきている。次のステップとしては、アンケート評価の「A」ということで指している具体的状態について意義深い討議がなされ、最高とされる状態に結び付く工夫を施すような運営を進めていく、ということがあろう。とりわけ「B」の回答が多い事項については、「A」ではないという以上、「A」に言われる最高の状態がどういったものであるかの事柄整理を行うことなしには、次の対応が具体化しにくいのではないかと。 ・経年で定点観測するという意味では、教育、運営、設備という三つの視点が重要ではないか。今後、施設面については、教室環境という事項を設けてもよいのではないかと。 ・アンケートの目的が学園のすばらしさの発信ということにある場合は、今回のような結果概況でもよい。しかし、経営上の課題を探るという目的から結果を見る場合、企業における同種のアンケートではそうなることが一般的であるが、「B」の回答が多いというのは課題の残る状況であると理解すべきであろう。 ・高評価が多い場合は、本当の課題が見えなくなるおそれもあるので留意されたい。 ・アンケート結果が、生徒や保護者からの貴重なフィードバックとして認識され、その次の一年間の運営に生かされているというのは、良い運営姿勢である。
熱心に指導してくれる教員が多い	91.3	
生徒は充実した学園生活を送っている	91.1	
【教職員】		
生徒が問題行動を起こした時に、きちんと対応している	100.0	
家庭への連絡は適切に行われている	95.2	
いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる	92.9	
図書館教育は知的関心を高めるのに役立っている	92.9	
熱心に指導してくれる教員が多い	92.9	
悩みや相談に親身になってくれる教員がいる	92.9	
P T A活動が盛んである	90.5	
トイレ設備が整備されている	90.5	
電子黒板、プロジェクタ、書画カメラ等は学習理解を深める	90.5	
<評価結果の比較的低かった項目> ※ 数値はABの回答率 [%]		
【中学生】		
知り合いや後輩に学園への入学を勧める	69.4	
部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている	69.4	
塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく	70.8	
進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている	70.8	
P T A活動が盛んである	72.2	
公平な教員が多い	72.2	
【高校生】		
部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている	64.2	
知り合いや後輩に学園への入学を勧める	66.8	
塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく	69.0	
P T A活動が盛んである	73.8	
ホームページや広報誌は学園の取り組みを知るのに役立っている	74.2	
トイレ設備が整備されている	74.7	
【中学保護者】		
塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく	70.1	
将来、学びたい学問などをイメージするための情報が提供されている	73.5	
進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている	73.8	
【高校保護者】		
塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく	66.4	
食堂は利用しやすい [高校のみ回答]	71.0	
【教職員】		
生徒は学園が目指す人間像（真理を学び賜物を生かすなど）を理解している	61.9	
部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている	61.9	
災害や不審者から生徒の身を守ることができるように配慮している	66.7	
食堂は利用しやすい [高校のみ回答]	69.0	
将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている	71.4	
ホームページや広報誌は学園の取り組みを知るのに役立っている	73.8	
進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている	73.8	
<全体総括>		
<p>コロナ禍により 6 月半ばまで一斉休校を余儀なくされ、学校再開後も感染症予防・対策で行事の中止や変更が多々生じた 2020 年度であったが、その一年間は、制約の多い状況にも負けず出来ることを探り、学校生活に懸命に励んでくれる生徒たちのためにどんな工夫ができるかを問われた年度であったとも言える。学園としては、関係者の感染症予防・対策を慎重に進めるとともに、4 月当初からオンライン学習を始めることができた等、これまで先進的に進めてきたインフラ整備の成果を活用して、「生徒たちの学びを止めない」ということに努めてきたが、生徒・保護者において大きな混乱なく一年間の運営協力がなされ、また今回のアンケート結果の概要に表れているように学園側の努力を好意的に受けとめていただいたということには、感謝の念に堪えない。コロナ禍の終息が見えず、海外研修等の実施が難しい状況が続いており、本校の重要な特色の一つであると同時に生徒・保護者からの期待も大きいグローバル教育で出来ることの範囲が限られている等、さまざまところで教育活動の工夫を求められているが、今回の評価アンケートを通じて伝えていただいた信頼と期待を改めて覚えつつ、より良い学園運営と生徒たちにとっての充実した学校生活の実現のために引き続き尽力したい。</p>		

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育の質的向上	<p>(1) 学園の教育理念への十分な理解に基づく学業生活の推進</p> <p>(2) 学力向上をもたらす学習指導の工夫、および生徒の自主的な学習姿勢の育成</p>	<p>ア. 礼拝への積極的な参加を促すことをはじめ、こころの教育のさらなる充実を図り、宗教・人権教育が重要視されていることが十分に理解されるように努める。</p> <p>イ. バランスの取れた教育活動を通じて、生徒の自律・自立を促し、自己肯定感を高める取り組みを推進する。</p> <p>ウ. グローバルリーダー育成のプログラムをさらに積極化・多様化させ、生徒において国際交流活動が身近なものだとさらに認識されるように図る。</p> <p>エ. ICT等の積極的な活用をはじめ、生徒における授業内容の理解を促すような工夫を継続する。</p>	<p>学校評価アンケートにおける結果を分析することを通じて評価するのを基本とする。</p> <p>ア. 建学の精神に関する理解、および宗教・人権教育が重要視されているかに関する評価結果がどの評価対象枠においても80%以上 (前年度→前者については生徒：中86.7%、高82.1%、保護者：中82.9%、高90.2%、教員：69.8%、また、後者については生徒：中95.7%、高86.8%、保護者：中93.4%、高94.0%、教員：75.4%)</p> <p>イ. 生徒が充実した学園生活を送っているかに関する評価結果がどの評価対象枠においても80%以上 (前年度→生徒：中92.7%、高89.7%、保護者：中94.3%、高93.9%、教員：94.3%)</p> <p>ウ. 姉妹校による交流や語学研修・留学制度が充実しているかに関する評価結果がどの評価対象枠においても80%以上 (前年度→生徒：中91.5%、高87.6%、保護者：中98.1%、高92.9%、教員：94.3%)</p> <p>エ. 学力向上につながる授業が多い(主要5教科平均)および電子黒板・書画カメラ・私物情報端末の学習効果に関する評価結果がどの生徒においても80%以上 (前年度→【前者】生徒：中89.3%、高83.7%【後者】生徒：中89.1%、高77.8%)</p>	<p>建学の精神の理解については、中学生(84.8%)、高校生(82.1%)及び中高保護者(中85.3%、高89.2%)の評価が80%を越えている。教員(61.9%)についてのみ80%に及ばず、昨年度より低い数値となった。コロナ禍で合同礼拝等も参集できず、十分な指導が出来なかった、という思いが強いのかもしれない。また、宗教・人権教育についても、教員(76.2%)を除く全ての評価対象枠において80%を越えている(生徒：中86.1%、高90.8%、保護者：中89.6%、高93.5%)。これも上記の理由が考えられるが、受ける側は想像以上に好評価を示してくれた。(○)</p> <p>中学生90.2%、高校生87.3%、中学保護者95.3%、高校保護者91.0%、教員88.1%と、前年度に引き続き全ての評価対象枠において80%以上の好評価が達成された。賜物を生かすことを念頭に、それぞれの生徒に対する丁寧な指導を引き続き行っていきたい。(○)</p> <p>中学生77.8%、高校生81.2%、中学保護者83.2%、高校保護者85.4%、教員76.2%と、例年全ての評価対象枠においてかなり高い評価を得ているこの分野において、比較的低い数値が一部において出てしまった。コロナ禍で海外研修も留学生の受け入れも全く出来なかったことの影響は否めない。それでもオンラインによる交流等が功を奏したのか、80%を超える枠が複数あったのは嬉しい限りである。(○)</p> <p>学力向上につながる授業が多いという評価(主要5教科平均)については、中学生は前年度からやや上昇し、平均で91.7%という結果であった。前年度は理科・社会が80%台であったが、今年度は英語・理科が80%台であった。全教科90%以上を目指し、さらなる研鑽が必要である。高校生も前年度から上昇し、88.6%であった。前年度は理科・社会が80%台、国語・英語が70%台であった。今年度は国語・英語は80%台であったものの、70%台の教科はなかった。全教科90%以上を目指し、さらなる研鑽が必要である。電子黒板等の効果について、中学生は84.7%と、前年度の89.1%よりやや下落した。高校で導入4年目となる私物情報端末については、前年度の72.8%から今年度は88.2%に大幅に上昇している。これはコロナによる休校とオンライン学習の推進の影響と推測できる。次年度から中学でも私物情報端末の導入を開始するので、有効に活用し、一層の満足度向上につとめたい。(△)</p>

<p>1 教育の質的向上</p>	<p>(3) キャリア教育の拡充を含む進路指導の充実化</p>	<p>オ. 個々の生徒における学習到達状況を把握し、各人の学習意欲を受けとめられるような丁寧な指導に努める。</p> <p>カ. 生徒の自主的な学習姿勢および課題発見・解決力を育成するために図書館教育の機能をさらに有効化させる。</p> <p>キ. 将来つきたい職業のイメージを喚起できるような機会を増やし、進路に関して明確な夢・目標が持てる指導を図る。</p>	<p>オ. 「塾・予備校に行かなくても学校の勉強で十分な学力がつく」「理解が不十分なときに面倒をよく見てくれる」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上（前年度→【前者】生徒：中76.4%、高67.5%、保護者：中59.6%、高60.7%【後者】生徒：中86.1%、高82.6%、保護者：中77.1%、高73.8%）</p> <p>カ. 「図書館教育は知的関心を高めるのに役立っている」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上（前年度→生徒：中91.5%、高78.6%、保護者：中97.1%、高89.1%）</p> <p>キ. 「将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている」「将来、学びたい学問などをイメージするための情報が提供されている」「進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上（前年度→【1つ目】生徒：中83.6%、高74.9%、保護者：中79.0%、高88.0%【2つ目】生徒：中76.4%、高82.1%、保護者：中74.3%、高87.4%【3つ目】生徒：中84.2%、高71.8%、保護者：中74.3%、高84.2%）</p>	<p>「塾・予備校に行かなくても学校の勉強で十分な学力がつく」に関しては、中学生70.8%、高校生69.0%、中学保護者70.1%、高校保護者66.4%と、80%にはまだまだ及ばない。この項目の評価上昇は緊急の課題であると言える。「理解が不十分なときに面倒をよく見てくれる」に関しては、中学生83.3%、高校生86.0%、中学保護者77.9%、高校保護者75.3%と、保護者の評価が低い傾向が見られる。理解が不十分な生徒に対して、授業や補講・追試などに加えて、私物情報端末を使ったWEB教材の活用を推進していることなどを保護者に積極的に発信する必要がある。(△)</p> <p>本校図書館「リブラリア」の積極的な取り組みが成果を上げており、中学生88.9%、高校生83.8%と高評価であった。保護者からも中学保護者94.6%、高校保護者86.7%と高く評価されている。(○)</p> <p>「将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている」では中学生79.2%、高校生78.2%、中学保護者75.5%、高校保護者81.2%と、多くが80%を下回った。「将来、学びたい学問などをイメージするための情報が提供されている」では中学生77.8%、高校生83.8%、中学保護者73.5%、高校保護者85.0%と、中学で80%を下回った。「進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている」では中学生70.8%、高校生80.8%、中学保護者73.8%、高校保護者82.0%と、同じく中学で80%を下回った。これらから、特に中学において早期からの進路学習を今以上に行うこと、高校においても職業観を養う進路学習を充実させることが必要である。(△)</p>
----------------------	---------------------------------	---	--	--

2 生徒 にお ける 学校 生活 の充 実	(1) リーダーシップの育成にも資する特別活動の充実化	ア. 生徒が主体となって参加・運営する学校行事のあり方を追求していく。 イ. 勉学と課外活動の両立を謳う本校においてはとくに、両者のバランスがきちんと確立されているということが求められており、学内外の関係者において納得してもらえる状況を作っていくのが重要である。	ア. 「学校行事は生徒が積極的に参加できるように工夫されているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上（前年度→生徒：中91.5%、高83.4%、保護者：中100%、高91.2%、教員：84.9%） イ. 「部活動は勉強時間が確保できるように配慮されているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上（前年度→生徒：中71.5%、高58.1%、保護者：中86.7%、高66.7%、教員47.1%）	コロナ禍で宿泊行事はすべて中止になり、その他の多くの行事も中止になる中、中高そして教員とも80%以上の高い評価を得た。次年度は、感染症対策を徹底しながらの行事運営になるが、工夫を重ねて、生徒が輝き、賜物を生かす教育を実践したい。(○) 全体的に改善傾向ではある（昨年度から施行されたガイドラインやコロナ禍で満足に部活動ができなかった影響もあることが考えられる）が、引き続き、評価は高くなかった。（中学生保護者を除き80%未満）。多くの関係者がさらなる配慮を求めていることは明らかである。時代にふさわしい「文武両道」を、はじめを大切にしながら、部活動の成果と学習面における指導との両輪が揃う方法を、今後も模索しなければならない。(△)
	(2) 社会性の高まるような生徒指導の充実化	ウ. 規則遵守の促進、美化意識の向上、いじめのない学校作りへの取り組みを通じて、学校生活における基本的環境を整えられるように図る。	ウ. 「規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされているか」・「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」・「生徒が問題行動を起こしたときにきちんと対応している」に関する評価結果の平均値がすべての評価対象者枠において80%以上（前年度（平均値）→生徒：中83.4%、高83.6%、保護者：中90.1%、高93.4%、教員88.0%）	保護者・教員から90%超の高い評価を得た。また、中学生・高校生からも80%を超える評価となっている。中学生の「いじめや暴力のない…」の評価も前年度は80%を下回っていたが改善した(83.3%)。さらに、改善すべく、HRや面談、中学はデイレート指導などを通して、生徒の日々の様子を注視し、指導することを大切にしていきたい。(○)
	(3) 生徒が安心して学校生活がおくれるような生徒支援の推進	エ. 学校生活の基盤たる健康の促進を図るべく、生徒における健康意識の醸成に努める。 オ. 生徒のメンタルヘルスの維持のため、親身になって対応にあたるように努める。それにあたっては、専門家との連携も進め、カウンセリングマインドの醸成をさらに図りたい。	エ. 「保健教育を通して健康管理の大切さについて意識を高める指導がされているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上（前年度→生徒：中85.5%、高78.9%、保護者：中94.3%、高91.8%、教員：90.6%） オ. 「悩みや相談に親身になってくれる教員がいるか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上（前年度→生徒：中73.9%、高79.2%、保護者：中84.8%、高87.4%、教員92.5%）	前年度も概ね高評価であったが、今年度は全ての評価対象者枠において80%超の高い評価となっている。コロナ禍における学園の感染症対策についての取り組みが評価されたと考える。体調管理表の提出や、手洗い・消毒の励行などである。また、保健室が発行している「保健だより」や生徒や保護者への丁寧な対応なども効果的であったと考える。(○) 生徒における評価は中学77.8%、高校81.2%、保護者における評価は中学81.5%、高校86.9%、中高教員の評価は92.9%であり、例年このような生徒と教員の評価の乖離が見られる。中3の評価が69.2%と低くなっているのと対照的に、高3の評価が90.0%と高くなっており、オンラインでの相談も、進めていくべきなのかもしれない。(△)

3 環境 整備 力の 向上	(1) 施設の充実	<p>ア. 自習室の環境をより良いものとし、生徒たちが自学自習の習慣を身につけられるように図る。</p> <p>イ. 利用しやすい食堂となるように改善を進める。</p>	<p>ア. 「自習室は利用しやすいか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中84.2%、高77.0%、保護者：中84.8%、高82.5%、教員86.8%)</p> <p>イ. 「食堂は利用しやすいか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 *高校のみ (前年度→生徒：80.5%、保護者：72.1%)</p>	<p>高校では82.1%と高評価であるが、中学ではやや低く76.4%となる。特に中2において63.6%とかなり低い評価となった。各学年で運営されている自習室も、学年によって運営方法が異なり、それによって各学年間で評価が分かれる原因になっていると考えられる。自習室での生徒（特に中学生）のマナー向上も課題である。(△)</p> <p>生徒・保護者とも前年より評価が下がり80%には到達しなかった。値段が少し高いのではというコメントが散見される。今後の値上げの影響が懸念される。昼食時の混雑がひどく、密であるとの指摘や、感染症対策として座席を減らしていることから、座席の確保が困難であるなどのコメントも見られるが、根本的な解決は難しい。(△)</p>
	(2) 外部環境への対応	<p>ウ. 通学路の保守をはじめ、災害や不審者から生徒の安全を守るためのさらなる努力を重ねたい。</p>	<p>「災害や不審者から生徒の身を守ることができるように配慮している」に関する評価結果が生徒・保護者のどの評価枠においても80%以上、教員は66.6%。 (前年度→生徒：中87.2%、高81.0%、保護者：中91.4%、高86.3%、教員：73.6%)</p>	<p>中学生徒の評価は91.6%、中学保護者89.2%、高校保護者89.7%と高い数値をいただいている。近年のような自然災害は無かったが代わりに新型コロナウイルス感染症禍に国内が見舞われた中で、学校として感染拡大防御と情報公開に努めたことによる評価と言えるかもしれない。教員における低い数値はそのような努力にかかわらず一時集団感染を許したことによると思われる。</p>
	(3) 情報の共有化と発信力の促進	<p>エ. 保護者との連絡を密に行うことを通じて、生徒の学内外における状況を的確に把握し、健全な成長を促す環境形成を図りたい。</p> <p>オ. ホームページ等を通じた発信を強化するとともに、生徒たち自身への訴求力もあるような発信内容の作成を行なって、学内の活性化がさらに図れるように工夫を施したい。</p>	<p>「家庭への連絡は適切に行われている」に関する評価結果がどの評価枠においても90%以上。 (前年度→生徒：中89.7%、高86.5%、保護者：中89.6%、高88.0%、教員：90.5%)</p> <p>「ホームページや広報誌は学園の取り組みを知るのに役立っている」に関する評価結果が中・高保護者枠において90%以上も、中・高生徒、及び教員枠において80%未満。 (前年度→生徒：中80.6%、高72.0%、保護者：中83.8%、高91.8%、教員：51.0%)</p>	<p>各家庭の協力により連携して生徒の安全と健全な成長を計ることに毎年度努力しているが、とりわけ感染症禍による緊急事態宣言中に始まった今年度は4月当初からオンライン・ホームルーム／学習を実現させてきたことが好評価に繋がっていると考えられる。</p> <p>今年度はじめに学園ホームページを刷新した。デザインや見やすさ、明るさ、機能性において進歩させた。休校中の生徒や家庭への情報発信や重要なお知らせの配信に役立った。学園の教育理念や学校生活の様子についての発信も行っていることを保護者において評価されている。教員の評価も格段に前年度を上回った。中・高生徒においてはさらなる評価向上のために、コンテンツの充実化や更新の頻度等、研究していきたい。</p>